

# Scale for the assessment and rating of ataxia(SARA) 評価用紙

		患者氏名：	評価日			
		検査者氏名：	/	/	/	/
<b>1.歩行</b>						
以下の2種類で判断する。 ①壁から安全な距離をとって壁と平行に歩き、方向転換する。 ②帰りは介助なしでつぎ足歩行（つま先に踵を継いで歩く）を行う。		0：正常。歩行、方向転換、つぎ足歩行が困難なく10歩より多くできる。 (1回までの足の踏み外しは可)				
		1：やや困難。つぎ足歩行は10歩み寄り多くできるが、正常歩行ではない。				
		2：明らかに異常。つぎ足はできるが10歩を超えることができない。				
		3：普通の歩行で無視できないふらつきがある。方向転換できるが支えは要らない。				
		4：著しいふらつきがある。時々壁を伝う。				
		5：激しいふらつきがある。常に、1本杖か、片方の腕に軽い介助が必要。				
		6：しっかりとした介助があれば10mより長く歩ける。2本杖か歩行器か介助者が必要。				
		7：しっかりとした介助があっても10mには届かない。2本杖か歩行器か介助者が必要。				
		8：介助があっても歩けない。				
<b>2.立位</b>						
被験者に靴を脱いでいただき、開眼で以下の方法で立っていただく。 ①自然な姿勢 ②足を揃えて（親趾同士をくっつけて） ③つぎ足で（両足を一直線に、踵とつま先に間を開けないようにする） 各肢位は3回まで施行可能、最高得点を記載する。		0：正常。つぎ足で10秒より長く立てる。				
		1：足を揃えて動揺せずに立てれるが、つぎ足で10秒より長く立てない。				
		2：足を揃えて、10秒より長く立てるが動揺する。				
		3：足を揃えて立つことはできないが、介助なしに、自然な肢位で10秒より長く立てる。				
		4：軽い介助（間欠的）があれば、自然な肢位で10秒より長く立てる。				
		5：常に片方の腕を支えれば、自然な肢位で10秒より長く立てる。				
		6：常に片方の腕を支えても、10秒より長く立つことができない。				
<b>3.坐位</b>						
開眼し、両上肢を前方に伸ばした姿勢で、足を浮かせてベッドに座る。		0：正常。困難なく10秒より長く坐っていることができる。				
		1：軽度困難、間欠的に動揺する。				
		2：常に動揺しているが、介助なしに10秒より長く坐ってられる。				
		3：時々介助するだけで10秒より長く坐ってられる。				
		4：ずっと支えなければ10秒より長く坐っていることが出来ない。				
<b>4.言語障害</b>						
通常の会話で評価する。		0：正常。				
		1：わずかな言語障害が疑われる。				
		2：言語障害があるが、容易に理解できる。				
		3：時々、理解困難な言葉がある。				
		4：多くの言葉が理解困難である。				
		5：かろうじて単語が理解できる。				
		6：単語を理解できない。言葉が出ない。				
<b>5.指追いつ験</b>						
被験者は楽な姿勢で座ってもらい、必要があれば足や体幹を支えても良い。検者は被験者の前に座る。検者は被験者の指が届く距離の中の位置に、自分の人差し指を示す。被験者に、自分の人差し指で、検者の人差し指の動きに、できるだけ早く正確についていくように命ずる。検者は被験者の予測できない方向に、2秒かけて、約30cm、人差し指を動かす。 これを5回繰り返す。被験者の人差し指が、正確に検者の人差し指を示すか判定する。5回のうち3回の平均を評価する。		0：測定障害なし。				
		1：測定障害がある。5cm未満。				
		2：測定障害がある。15cm未満。				
		3：測定障害がある。15cmより大きい。				
		4：5回行えない。				
<b>6.鼻-指試験</b>						
被験者は楽な姿勢で座ってもらい、必要があれば足や体幹を支えてよい。検者はその前に座る。検者は、被験者の指が届く距離の90%の位置に、自分の人差し指を示す。被験者に、人差し指で被験者の鼻と検者の指を普通のスピードで繰り返し往復するように命ずる。運動時の指先の振戦の振幅の平均を評価する。		0：振戦なし。				
		1：振戦がある。振振は2cm未満。				
		2：振戦がある。振振は5cm未満。				
		3：振戦がある。振振は5cmより大きい。				
		4：5回行えない。				
<b>7.手の回内・回外運動</b>						
被験者は楽な姿勢で座ってもらい、必要があれば足や体幹を支えてよい。被験者に、被験者の大腿部の上で、手の回内・回外運動を、できるだけ速く正確に10回繰り返すよう命ずる。検者は同じ事を7秒で行い手本とする。運動に要した正確な時間を測定する。		0：正常。規則正しく行える。10秒未満でできる。				
		1：わずかに不規則。10秒未満でできる。				
		2：明らかに不規則。1回の回内・回外運動が区別できない、もしくは中断する。10秒未満でできる。				
		3：きわめて不規則。10秒より長くかかるが、10回行える。				
		4：10回行えない。				
<b>8.踵-すね試験</b>						
被験者をベッド上で横にして下肢が見えないようにする。被験者に、片方の足をあげ、踵を反対の膝に移動させ、1秒以内ですねに沿って踵まで滑らせるように命ずる。その後、足を元の位置に戻す。片方ずつ3回連続で行う。		0：正常				
		1：わずかに異常。踵はすねから離れない				
		2：明らかに異常。すねから離れる（3回まで）				
		3：きわめて異常。すねから離れる（4回以上）				
		4：行えない。（3回ともすねに沿って踵をすべらすことができない）				